

～指導医からのメッセージ～



初期臨床研修プログラム責任者 外科部長 和田浄史

初期研修で身につけてほしいことが三つあります。

一つは“プライマリ・ヘルス・ケア”です。これには基本的臨床能力も含まれます。しかし、手技だけに偏ることなく、患者さんの個性を尊重した問題解決能力を身につけることが大切です。

二つ目は“自ら進んで学び続ける力”です。ヒナ鳥のように餌を待っているだけでは、医師として生涯成長し続けることはできません。

三つ目は“主治医として責任を持ち続ける能力”です。例えば終末期などで、もはや医師として提供できる治療がなくなったとしても、看護師や牧師や家族や友人の役割を担いながら、最期まで患者さんに寄り添い続ける能力が求められます。

科学的視点とヒューマニズムの調和は、僕の研修指導の根幹をなすものです。研修医が成長し、日常の診療で見事なバランス感覚をみせてくれる時、僕は心の底からうれしく思いますし、指導医冥利に尽きる瞬間です。こうして研修医の瑞々しい感性に刺激されて、僕たち指導医も日々成長しているのです。

～指導医からのメッセージ～



小児科部長 高村 彰夫

「初期研修なんてやる気があればどこでやったって同じ、だったら病院がきれいで、大きくて有名病院が良いに決まっている！！」そんな風に思っている人多いですよね？卒業したての医師にとって良い初期研修は何なのか？私たちは長年考えてきました。プライマリケアを重視した研修を二十年近く取り組んでおり、中小規模の病院としては数多くの研修受け入れを経験しています。現行の研修プログラムも、そんな研修を終了した医師達の生の声が反映されたものです。ただ、それは今現在も完成形ではないですし“ベストな初期研修”も人それぞれでしょう。

こだわっているのは、研修医自身が主体者となり技能的にも人間的にも一人前の医師として成長するための土台を築けるように手助けする環境作りです。各科を研修して得た手技や知識を断片的なものにしない研修サポート体制はその一例ですが、短いようで長い二年間に

かかる精神的な負荷に対するメンタル面へのケアにも気を配っています。

それほどきれいではなく、大きくもなく有名ではない病院ではありますが、“患者さんと研修医が主人公”の病院での初期研修を受けてみる価値はありますよ。

